

# 事例から考える リスクマネジメント

## 本日の授業内容

1. リスクへの備え
2. もしもリスクが起きてしまったら・・・
3. 私的保障
4. まとめ

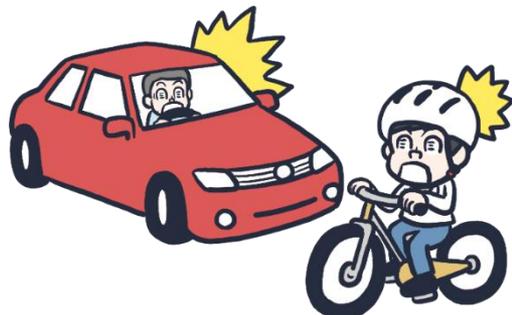
# 1. リスクへの備え

～ 3つの保障を理解しよう～

# リスクとは何か

リスクとは…

**起きてほしくないことで、起きるとお金がかかること**



交通事故



病気で入院



自転車の盗難



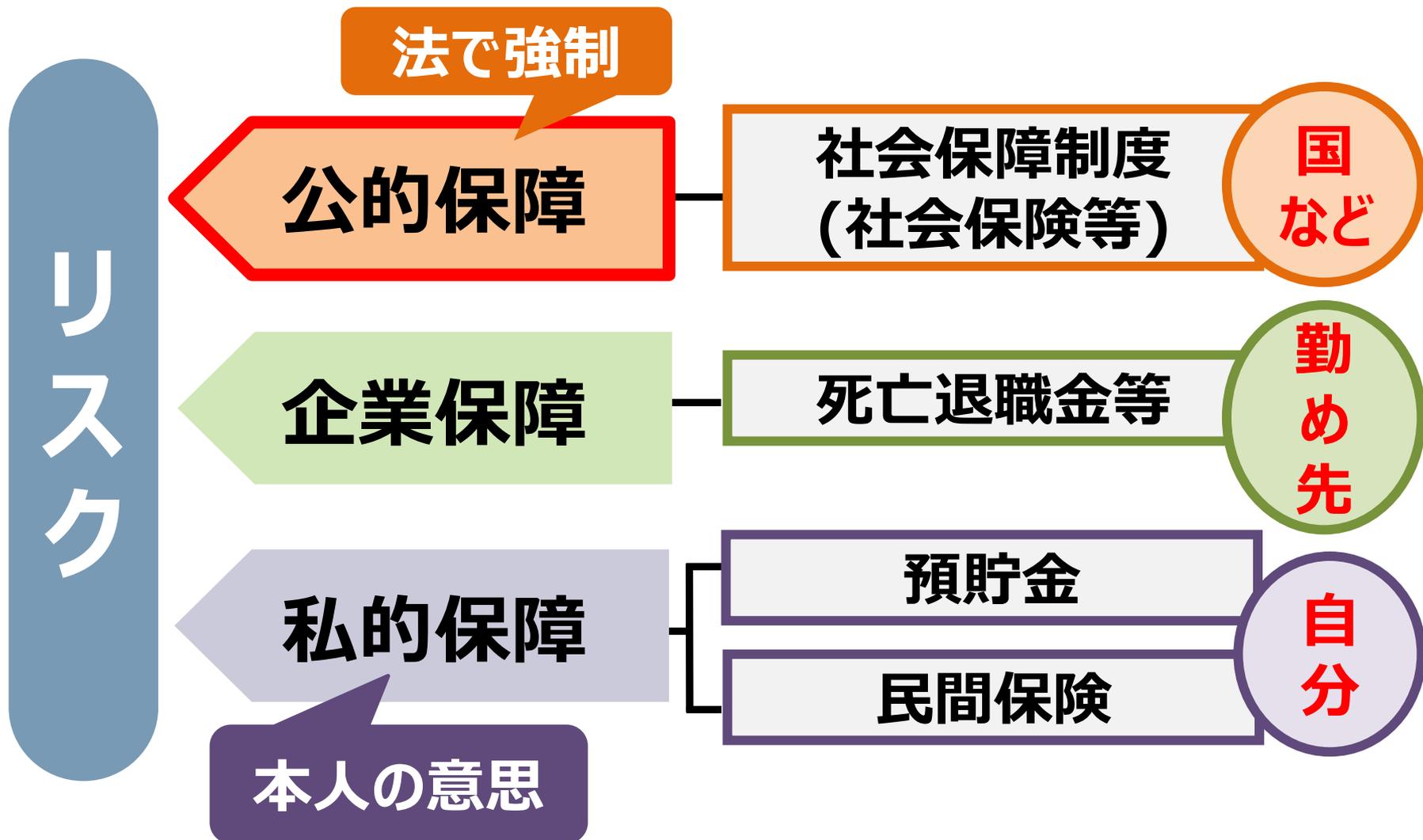
介護



スマホを破損

# リスクに備える3つの保障

保障：もしものときに生活を守るもの



# 社会保障制度の概要



## 2. もしもリスクが 起きてしまったら・・・

# 事例①

## 足の骨折で入院・手術したら

### Aさん(23歳)の場合

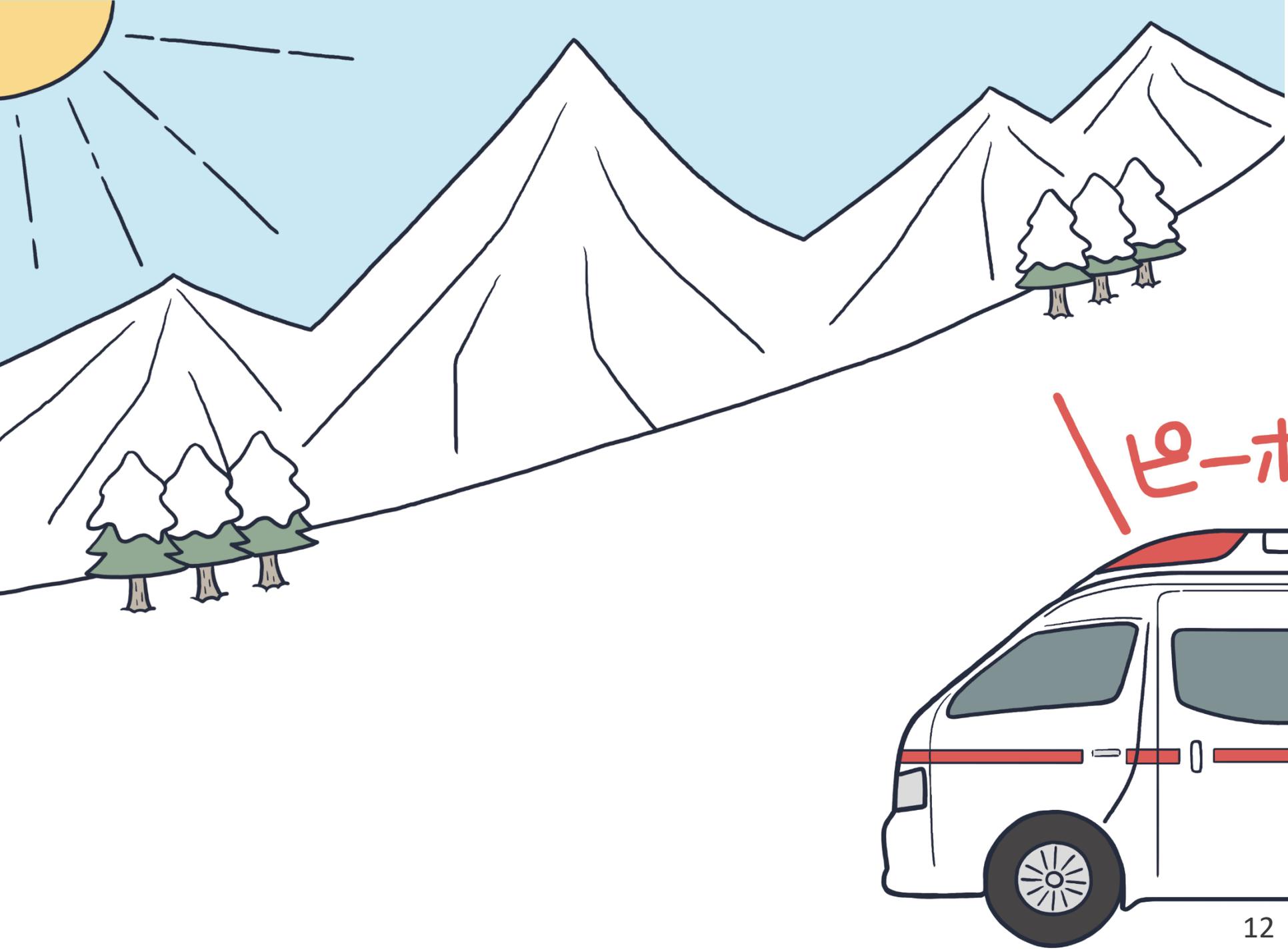


今日は沢山  
すべるぞ〜!



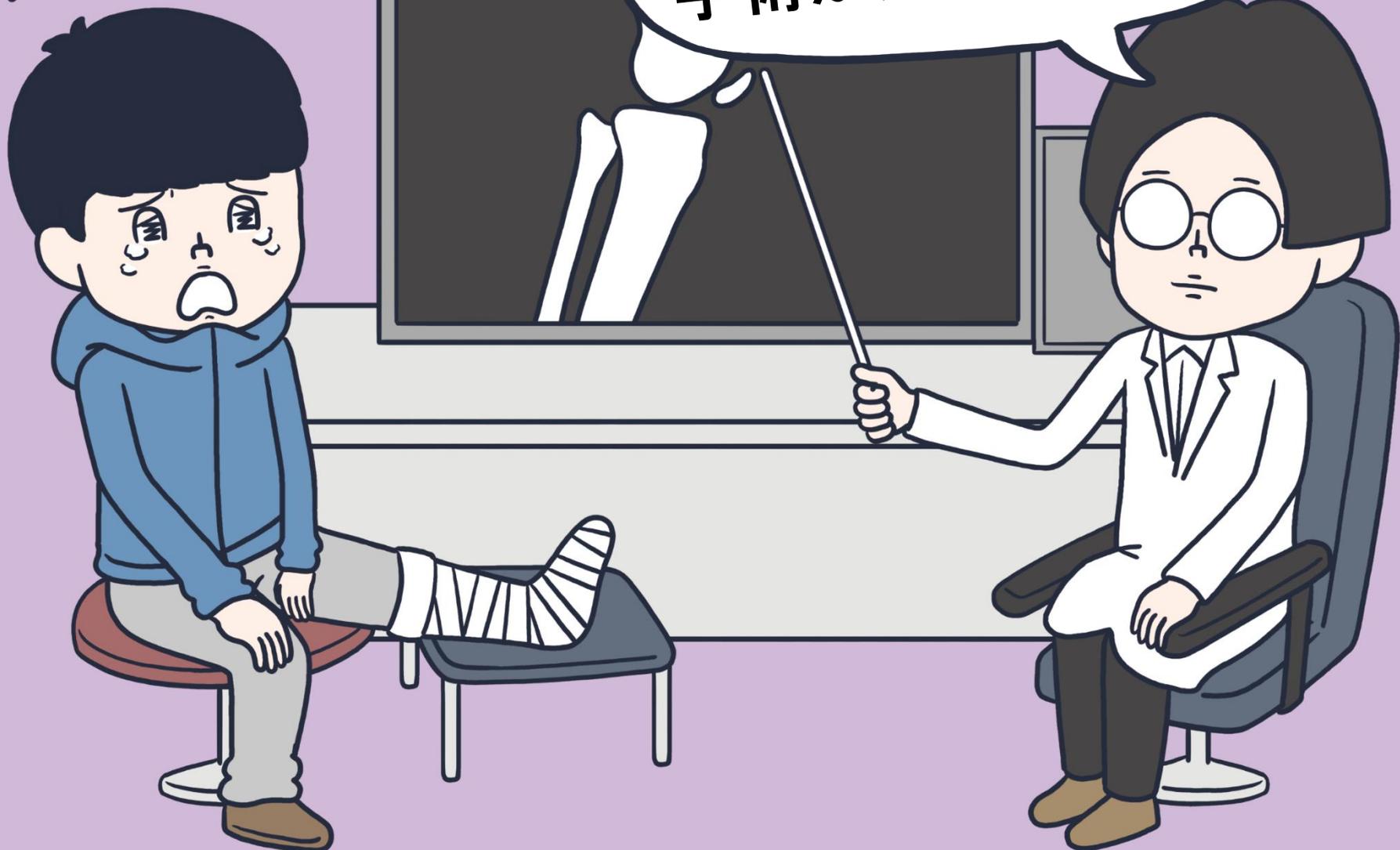




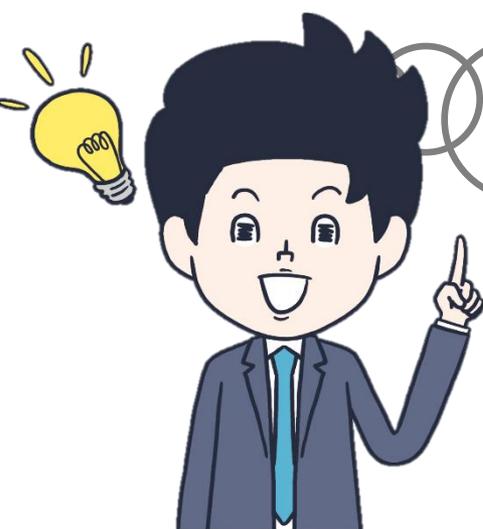


ううっ...

これは...  
手術が必要ですねぇ



## 骨折をしたら・・・ どんなことにお金がかかるか考えてみよう



入院、手術、薬にお金がかかるかな？入院している間の生活費も必要？10,000円くらいかな？

# ①必要となるお金(事例①)

★足の骨折で手術が必要となり、9日間入院した事例

—

## ①必要となるお金

かかった医療費	約140万円
その他	約3万円
合計	<u>約143万円</u>

※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2025年4月改訂版)をもとに作成

※その他・・・入院中の衣類・日用品やお見舞いに来た家族の交通費・食費等



## ②入ってくるお金(事例①)

+

### ②入ってくるお金

公的保障  
(公的医療保険) 約129万円

合計 約129万円

※実際は健康保険組合などから医療機関に支払われるもので、高額な立替えが必要なわけではありません。

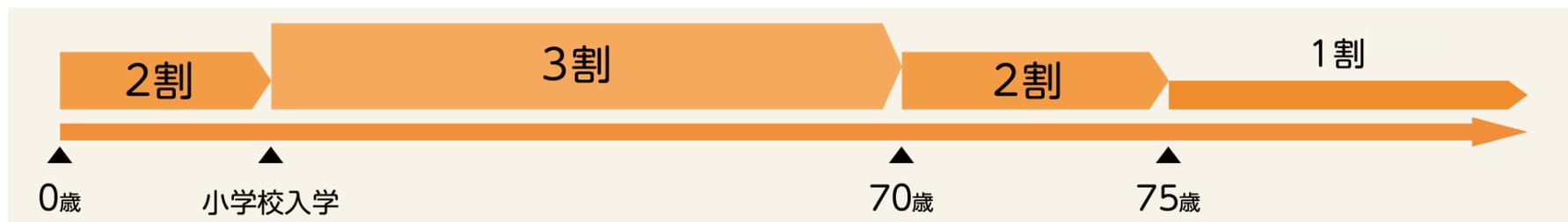
※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2025年4月改訂版)をもとに作成

ケガや病気で入院したときには、国などから受けられる公的保障として、「**公的医療保険**」があります。

## ② 入ってくるお金(事例①)

### ● 公的医療保険 (公的保障)

#### 年齢による自己負担の割合



自己負担は**3割**(小学校入学後～70歳になるまで)

自己負担が高額な場合は「高額療養費制度」を活用できる

事例の場合、受けられる保障は合計約**129万円**

### ③自分で準備する必要があるお金(事例①)

「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が自分で「準備する必要があるお金」。



#### ① 必要となるお金

かかった医療費	約140万円
その他	約3万円

---

合計	約143万円
----	--------

+

#### ② 入ってくるお金

公的保障	約129万円
(公的医療保険)	

---

合計	約129万円
----	--------

=

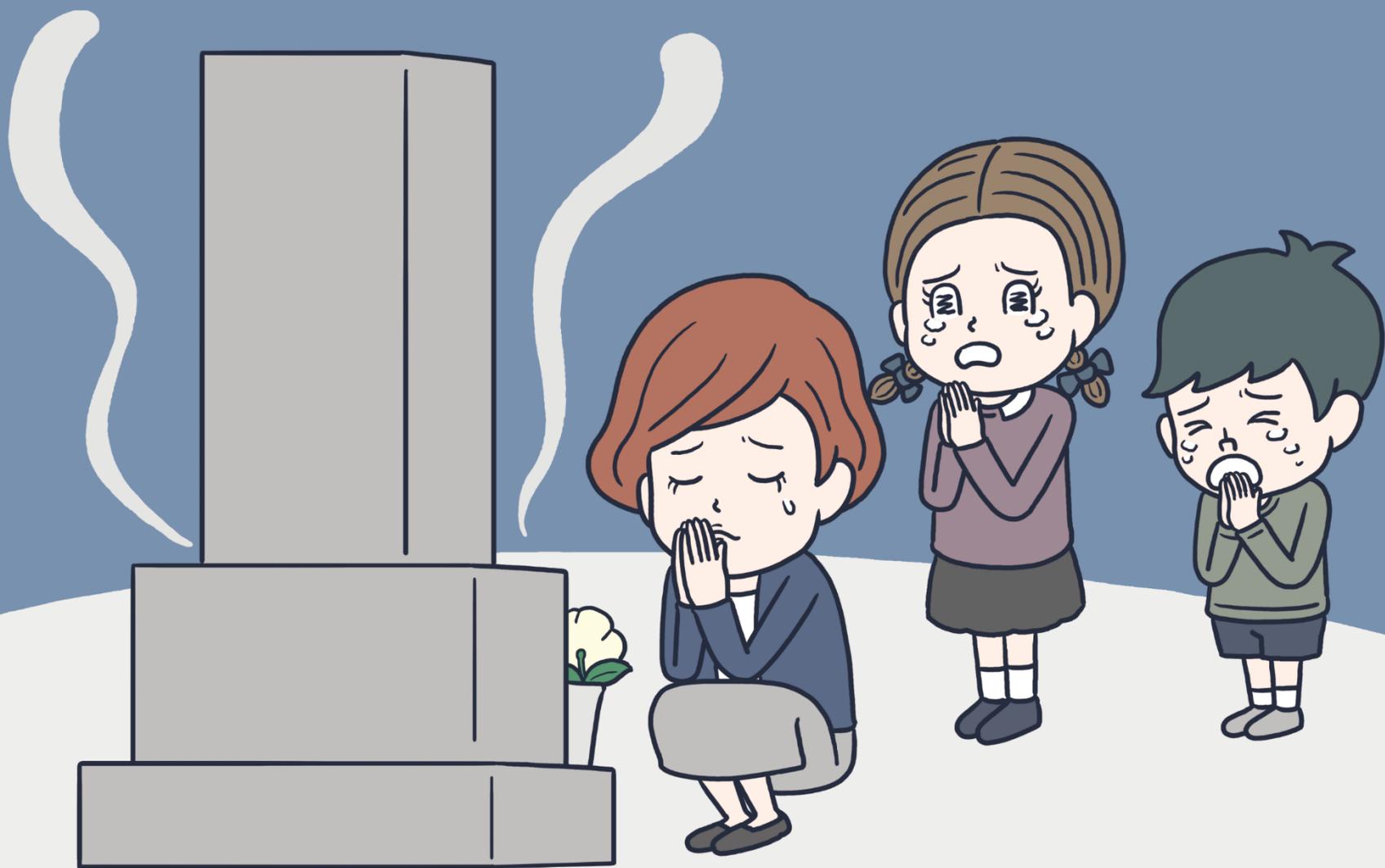
③ 自分で準備する必要があるお金  
**約14万円**

## 事例②

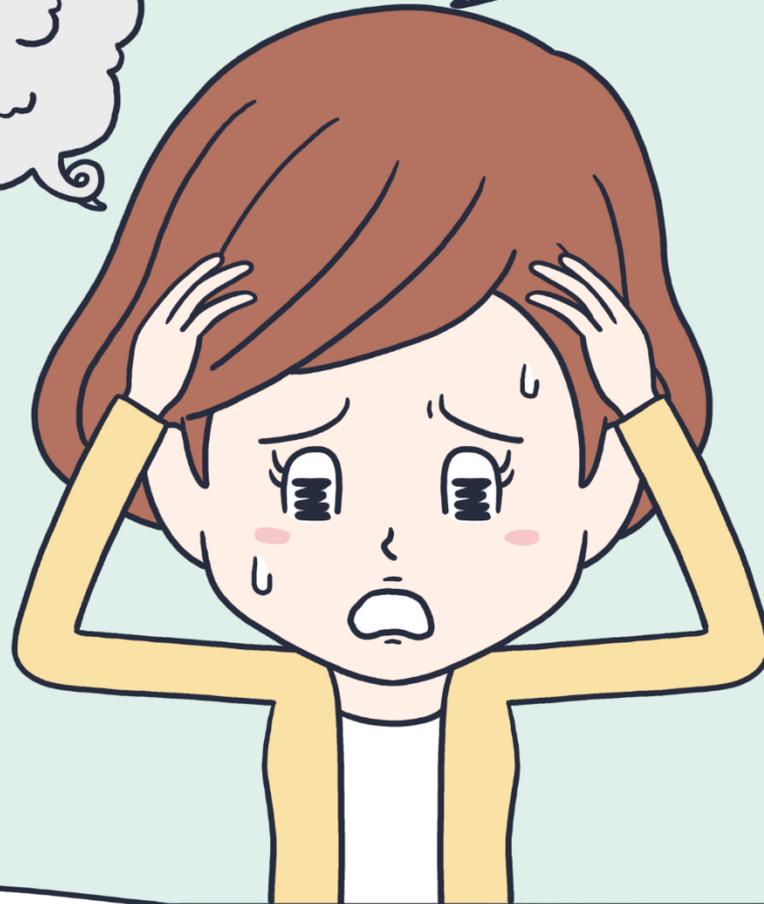
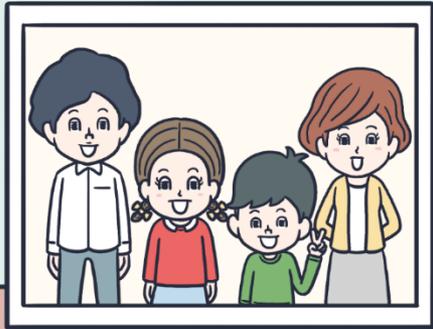
もしも亡くなってしまったら

Bさん(45歳) 妻(42歳)

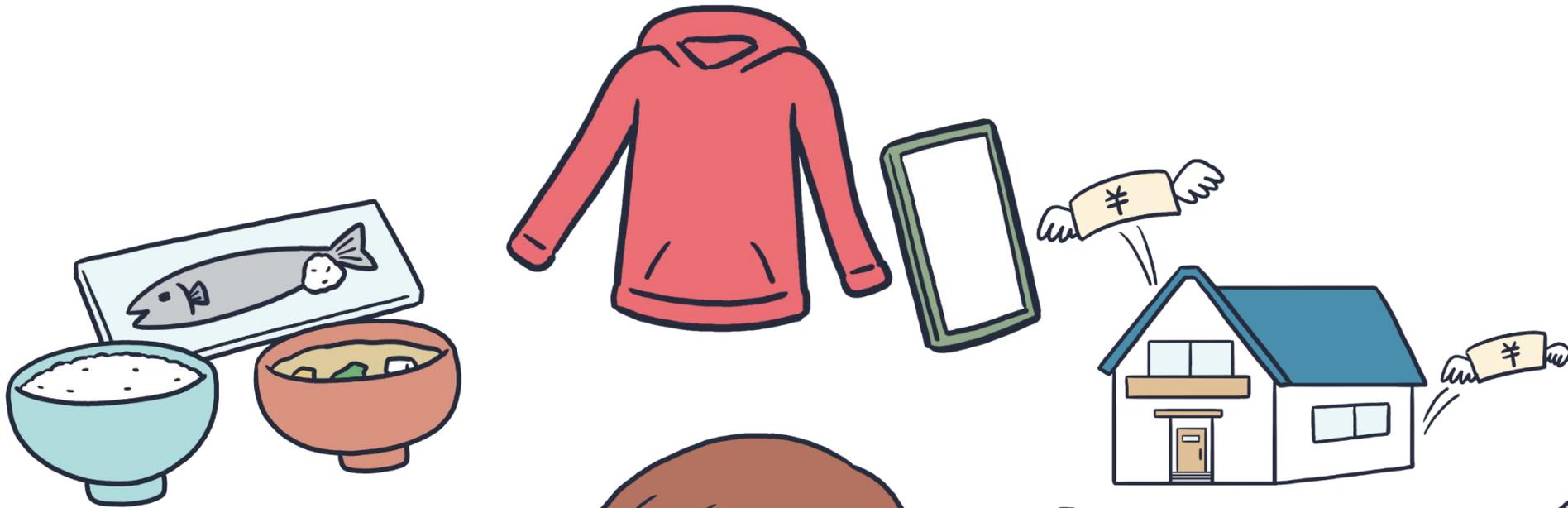
子ども2人の場合



夫の収入が無くなって、  
私の収入だけでは...



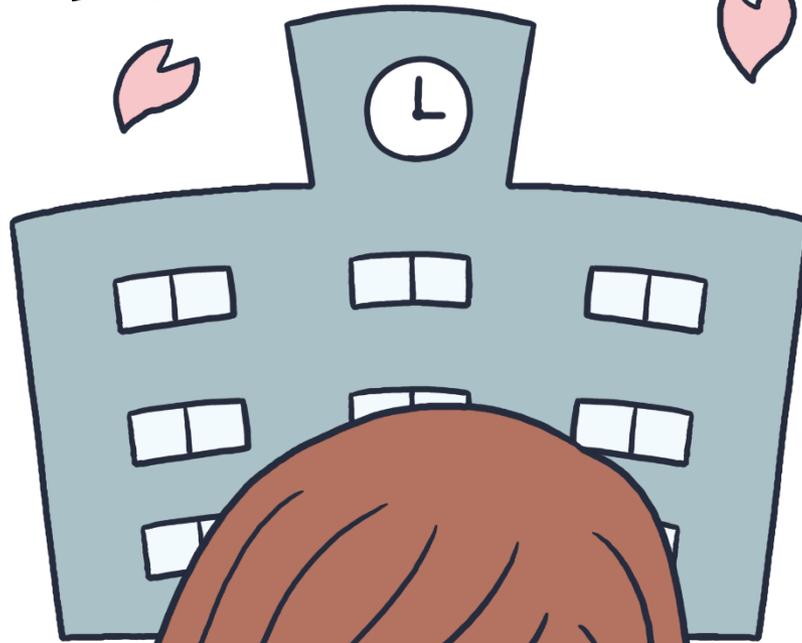
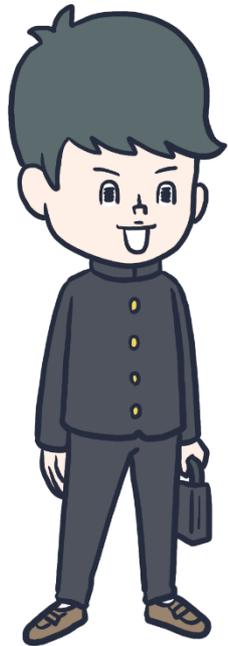
# 生活費もあるし



あれも

これも

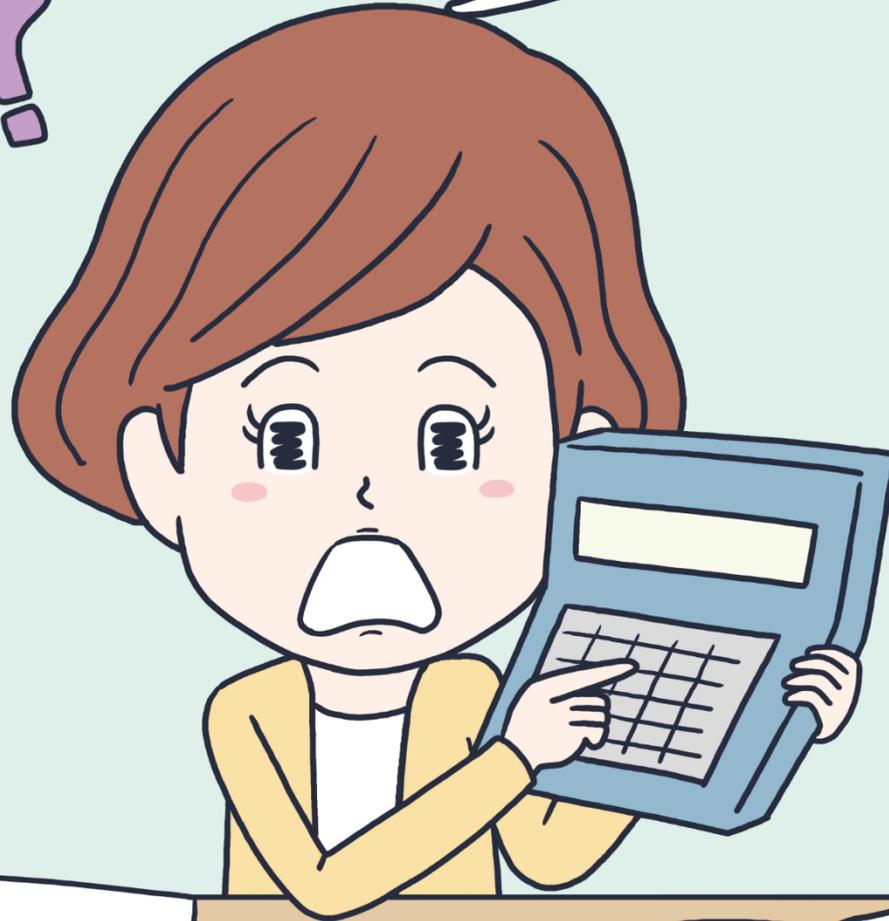
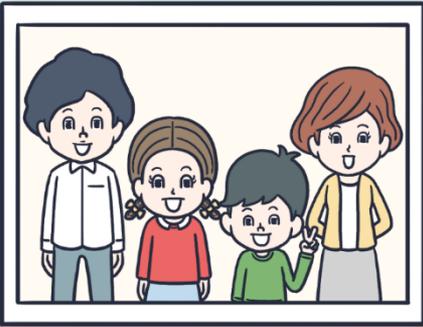
# 教育費もあるし



あれも

これも

これから一体  
いくらかかるのかしら？



もしもBさんが亡くなってしまったら・・・  
「何」に「いくら」かかるか考えてみよう



生活費や教育費・住まい  
にかかるお金とかかな？  
お葬式のお金も必要？  
1,000万円くらい  
かかるのかな？

# ①必要となるお金(事例②)



## ①必要となるお金

生活費	約9,320万円
子どもの教育費	約2,250万円
その他	約1,590万円
<b>合計</b>	<b>約1億3,160万円</b>

※生命保険文化センター「遺族保障ガイド」(2023年11月改訂版)をもとに作成

※その他・・・住居修繕費用や  
子ども2人の結婚費用、葬儀費用など



**必要なお金（約1億3,160万円）は  
どうやって準備するか考えてみよう**

**こんな大金どうやって  
準備するんだろう？  
預貯金で払える金額  
なのかな？**



## ②入ってくるお金(事例②)

+

### ②入ってくるお金

公的保障 (遺族年金)	約6,260万円
企業保障	約400万円
妻の収入	約2,340万円
合計	約9,000万円

※生命保険文化センター「遺族保障ガイド」(2023年11月改訂版)をもとに作成

国などから受けられる公的保障として  
公的年金には、  
**「遺族年金」**があります。

### ③自分で準備する必要があるお金(事例②)

「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が「自分で準備する必要があるお金」。



−

#### ①必要となるお金

生活費	約9,320万円
子どもの教育費	約2,250万円
その他	約1,590万円

---

合計 約1億3,160万円

+

#### ②入ってくるお金

公的保障	約6,260万円
企業保障	約400万円
妻の収入	約2,340万円

---

合計 約9,000万円

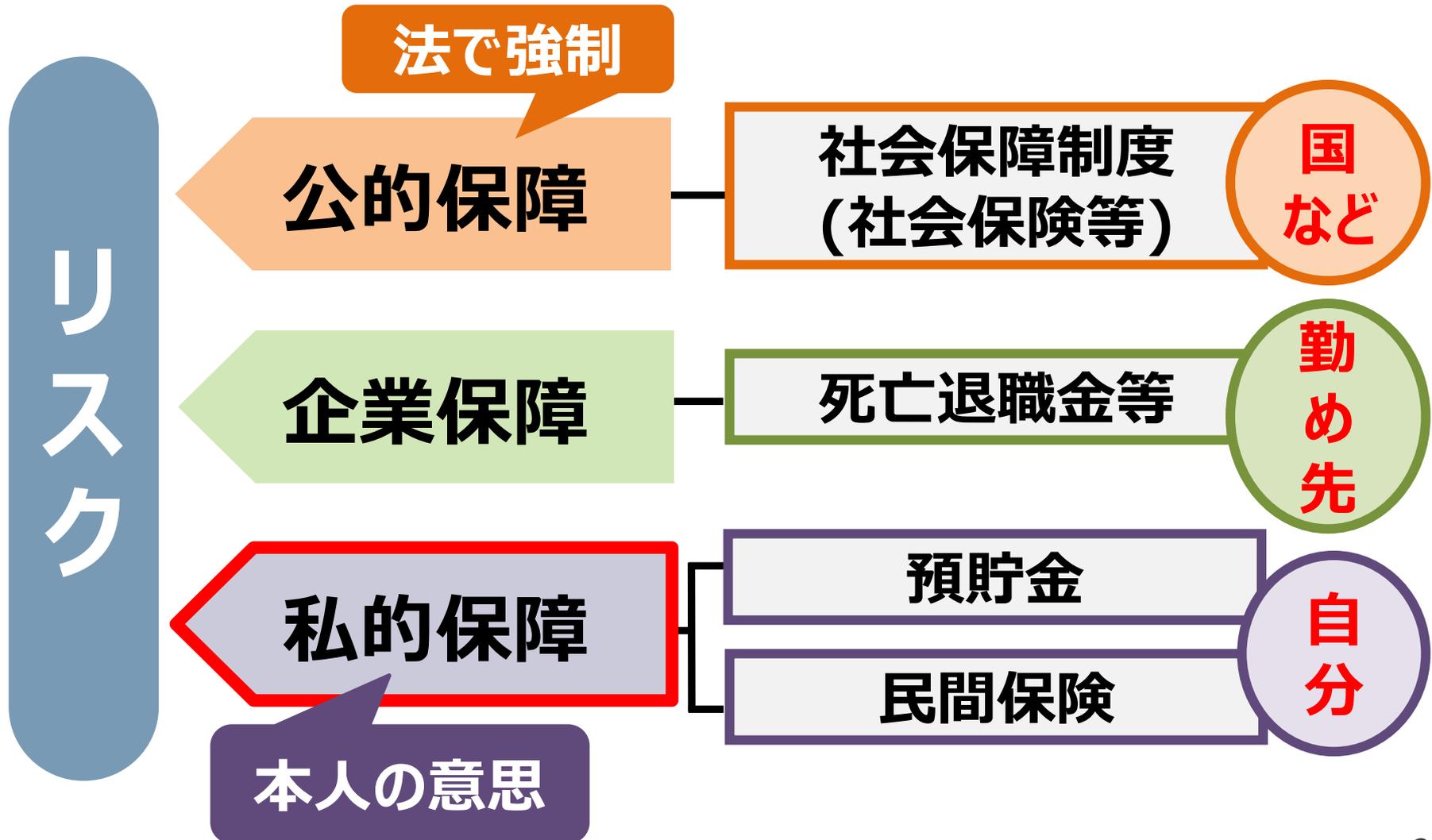
#### ③自分で準備する必要があるお金

**約4,160万円**

=

# リスクに備える3つの保障

保障：もしものときに生活を守るもの



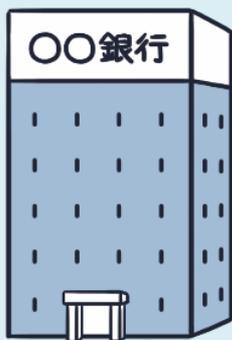
# 3. 自分で準備する 「私的保障」

# 預貯金と民間保険①

## 預貯金



お金を預ける



お金を引き出す

お金が必要になると

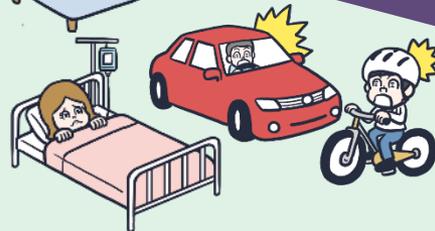
## 民間保険



お金(保険料)を支払う



お金(保険金)を受取る

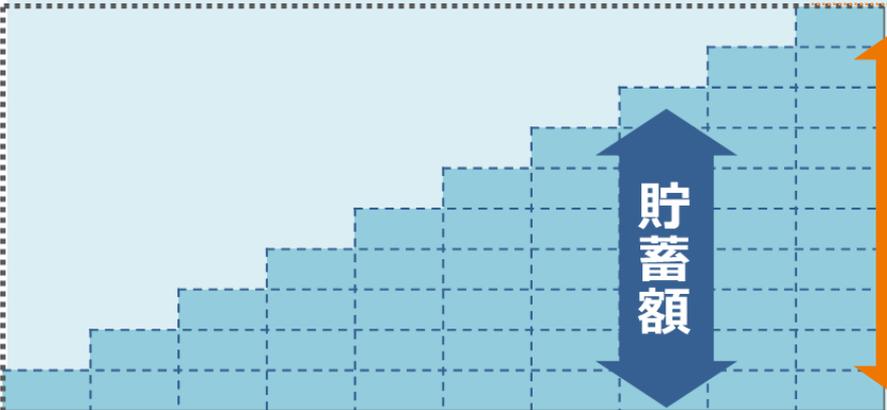


リスクの起きた人が

# 預貯金と民間保険②

## 預貯金

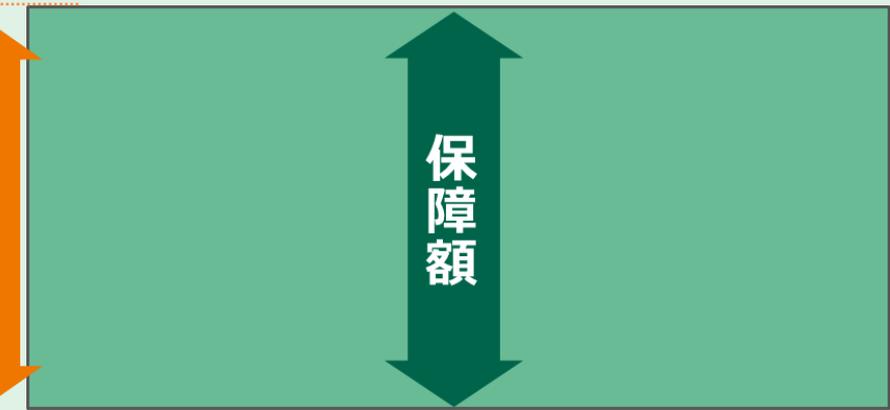
目標額



特徴

**さまざまな目的の  
ために貯める**

## 民間保険



特徴

**特定の損失  
に備える**

注 ①預貯金は利子や税金などを考慮しない金額。②保険料は男性（30歳）契約で、保険期間10年、保険金額1,000万円の定期保険の例。実際の保険料は、保険種類や契約内容、生命保険会社によって異なる場合があります。

# 「預貯金」と「民間保険」の違い③

## 預貯金

### メリット

- 貯めたお金は自由に使うことができる。
- 途中での引き出しや貯めるペースが自由。
- 預けた金額に応じて利子がつく。

### デメリット

- 途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、**必要な金額**が貯まっているとは限らない。

## 民間保険

- 途中いつでも、病気やケガ等のリスクが発生した場合に、あらかじめ**決められた**金額を受け取ることができる。

- 結果的にリスクが発生しなくても、決められた金額を保険料として支払う必要がある（保険の種類によっては一部戻ってくる場合がある）。

# 保険のしくみ①

100人の部員がいる  
サッカーチーム



毎年  
5人の部員が  
骨折を  
している



対策をしても  
ケガは減らない...



治療にかかる費用は  
1人10,000円



## 保険のしくみ②

全員で治療にかかる  
費用を準備すれば  
よいのでは？



治療にかかる費用は  
全員分で  
 $10,000\text{円} \times 5\text{人}$   
➡  $50,000\text{円}$



$50,000\text{円} \div 100\text{人}$   
➡ 1人あたり  
年間500円



骨折した生徒は  
 $10,000\text{円}$ を受け取り、  
治療費にあてる

# 保険のしくみ③

## ケガに備えるために……

それぞれが  
出し合う費用



×



100人



¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000



骨折した5人は10,000円ずつ受け取り、治療費を支払える

# 生命保険と損害保険

## 生命保険

## 損害保険

対象

人

モノ

受取額

あらかじめ約束した  
金額  
(定額給付)

事故により発生した  
損害額  
じっそんてんば  
(実損填補)

備えられる  
リスク

- 死亡
- 病気・ケガ
- 老後
- 介護



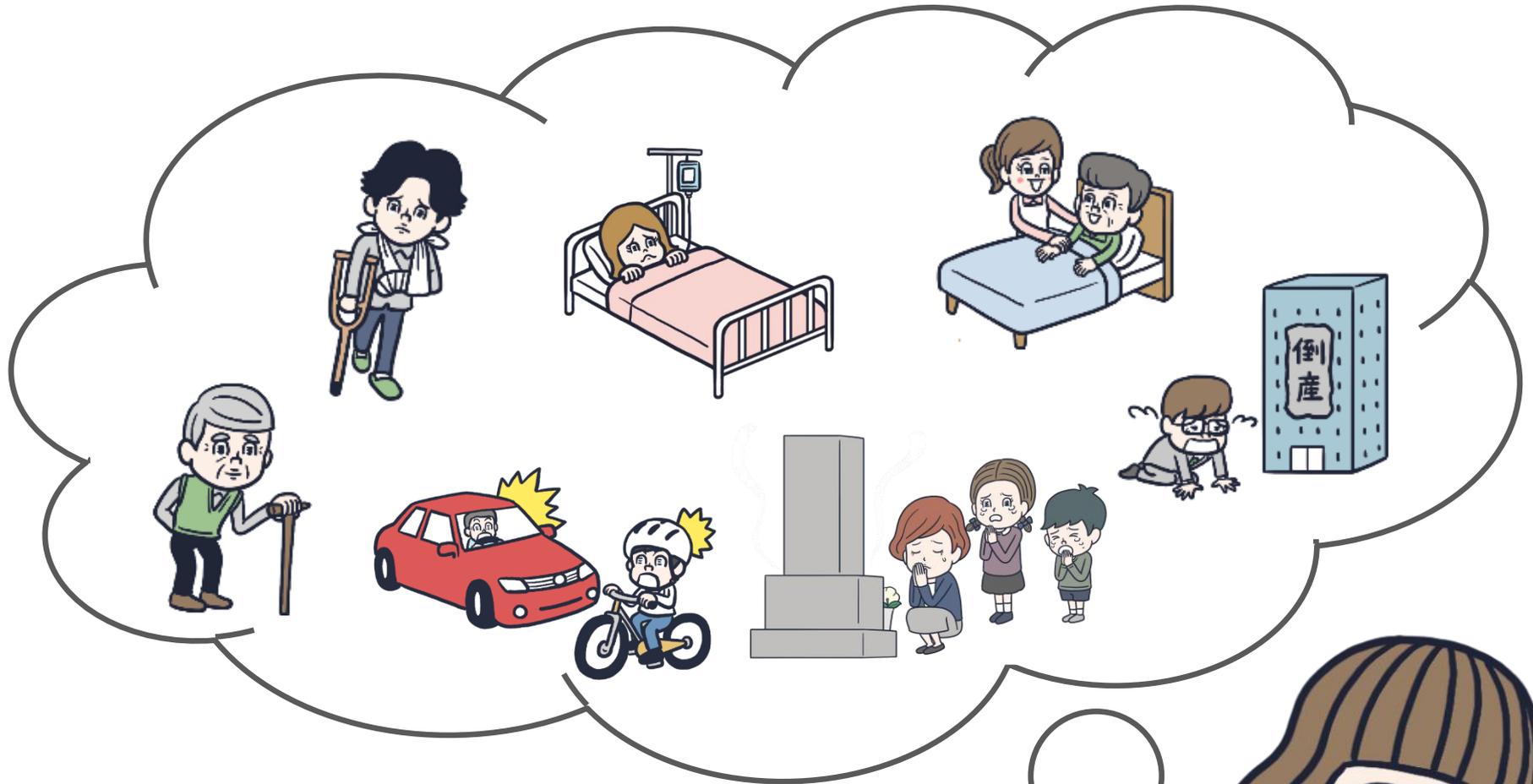
など

- 交通事故
- 火事
- 台風や地震
- ケガ



など

# 状況に応じたリスクマネジメント



家族構成や年齢などによって、  
身の回りにあるリスクは異なります。  
状況に応じてリスクへの備えを考えよう。



# 4. まとめ

## まとめ

- ① リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。
- ② **公的保障**と**企業保障**で不足する部分を**私的保障**で補う。
- ③ **預貯金**と**民間保険**にはそれぞれ特徴があり、使い分ける必要がある。
- ④ 家族構成や年齢などによって、身の回りにあるリスクは異なる。  
状況に応じて**リスクへの備え**を考えよう。